



2019年10月11日

日本鉄道労働組合連合会

連合第16回定期大会

～まもる・つなぐ・創り出す～

結成30周年を節目に連合運動の前進を満場で確認

結成30周年を迎えた連合は、10月10～11日、第16回定期大会を開催した。スローガンに「私たちが未来を変える～安心社会に向けて～」を掲げ、参加者は来賓・代議員・傍聴者ら1,000人を超え、JR連合からは加盟各単組とともに、28人が出席した。

冒頭、神津里季生会長より「働く形そのものが大きく多様化している今日、すべての働くものを守り、社会全体の安心を確保していくためには、集团的労使関係の確立と拡大を図り、地域で粘り強く闘い、社会の隅々まで広げ、雇われずに働く人も一緒に労働組合に集うことのできる社会を構築していなければならない」と力強く訴えた。

議事では執行部提案に対して、13人の代議員から発言があり、JR連合からは今井孝治企画部長が集团的労使関係の拡充・強化について発言を行った。今井部



長は「働き方改革においては、労働組合が存在し、改めるべきところを労使で共有し、その方向性を継続的にチェックし続けなければならない」と労働組合が果たすべき役割に触れつつ、「特にJRには『安全』という絶対的な使命があるからこそ、労働組合が組合員の声をいかに会社に届け、現場の実態を明らかにできる

かが会社の命運を握る」とJR産業における労使関係の必要性を語った。加えて、JR産業がグループ全体の総合力で運営されていることを述べた上で、「グループ会社の隅々まで労働組合の必要性を強く訴求し、労働組合の組織化・組織拡大を加速させ、健全で強固な集团的労使関係を構築していかななければならない」とJR産業で働くすべての仲間の“総結集”に向けた決意を示した。

役員選挙では、会長の神津里季生氏（基幹労連）、事務局長の相原康伸氏（自動車総連）が再任される新たな役員体制を確立。JR連合からは、荻山市朗会長が中央執行委員に選任された。